

や やるぞ～ ま まけないぞ～ が がんばろうぜ～ た 楽しい学校になるように

丸く納めるためのとどめの「シャン」！

2年生の担任で生徒会担当をしている時の、生徒会役員選挙にまつわる話。役員選挙に立候補した生徒の演説原稿は、全部事前に目を通して、その内容や表現には平等・公正にアドバイスをするのは当たり前のことである。

立会演説会本番でのこと。副会長に立候補したD男が、事前に見せてくれた内容にはないことを、演説の中で突然言い放った。

「私が副会長に当選した暁には、外の部活動の充実のため、グラウンドのナイター設備を実現します。」とぶち上げたのだ。教職員は啞然とし、彼を支持する一部の生徒を中心に拍手喝采が起こった。投票が終わった放課後に呼び出した。

「おい、どういうつもりだ。」「いや、突然思いついて。」「どこにそんな金あるんだよ。お前が出せるのかよ。」「生徒思いの先生に相談すれば、何とかしてくれるんじゃないかと思って。」「無理に決まってるだろ。」

まあ、周囲からの信頼が決して大きいとは言えない彼だったが、目立ちたがり屋で本人がどうしても立候補したいというので立候補を容認したが、彼のこの発言は、同様に考えが浅はかな生徒には受けたのも事実で、彼のイケメンな容姿も味方し、もしかしたら当選するかもなど思い巡らしていた。しかし選挙民(全校生徒)は良識ある判断をした。(つまり彼は落選した。)
「公約」の重みを全く理解していなかった末の惨敗であったと思う。

今回(5/24)の生徒総会を見ながら、あの時のことが懐かしく思い出された。

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

<5月24日(火)生徒総会 校長講和(講評)>

本日の生徒総会、また、昨年度新しい生徒会役員や専門委員長が決まってから今日に至るまでの3年生の様子を見てきて、これまでに様々な斬新なアイデアや公約を考え、自分たちの意思で行動し、この山潟中学校を良くしたい、盛り上げたいという前向きで良識ある姿勢が、ひしひしと伝わってきました。たいへんすばらしい生徒会であり、全校をリードする、特に3年生の最高学年としての意気込みを感じます。正直、3年生も2年生も、一年前より確実に学年全体が成長したなあという、うれしい思いでいます。

今日は生徒総会ですが、私自身、新年度のこの4、5月に、たくさんの「総会」に出席しました。PTA総会、県の校長会の総会、市の中教研総会、他の外部の団体等も含めると参加した「総会」という名の会がたくさんあります。

総会というのは、組織全体を運営する上で、代表者や役員だけで勝手にものごとを決めたり勝手に活動するわけにはいきませんので、もちろんその組織に所属している皆さんから了承してもらい、合意を確認する必要があるわけで

す。どの総会でも、今のこの時期は、新年度の方針や活動計画についての審議や承認が中心です。今日の生徒総会もそうですね。その他に、「株式会社」という会社組織には株主総会というのもあります。

さて、皆さんは聞いたことがあるかどうか分かりませんが、「あー今日の総会は、『シャンシャン総会』だったね。」などと呼ぶようなことがよくあります。

『シャンシャン』というのは、パンダの名前ではありません。手をたたく音です。手締め音。よくお祭り事やいろんな式典、そして株主総会などが終わると、手締めをすることがあります。「それでは皆さん、お手を拝借。今日の〇〇が無事成功したことを祝しまして、よー(シャン)」と。これは『一丁締め』と言うんですね。因みに『一本締め』というのは「シャンシャンシャン・シャンシャンシャン・シャンシャンシャン・シャン（「シャン」を3・3・3・1回）」です。シャンが九回の「九」にシャンを最後に1回足すと、「九」は「丸」になります。つまり、物事が丸く納まったということになるのです。

話を戻します。『シャンシャン総会』とは、特に質疑もなく、応答もなく、ただ代表者の説明や提案だけでものごとが淡々と進み、無事に会が終了することです。議長が計画や提案の承認を求めるときに、参加者から拍手で承認を求めることが多いことから『シャンシャン総会』なんですね。

もちろん、代表者や役員提案や説明が非のうちどころがない内容ならば、何の質疑のやり取りもないでしょうが、『シャンシャン総会』というのは、どちらかと言うと、皮肉を効かせた批判的な表現で、あまりいい捉えの表現で使われないのが常です。

どちらかと言うと、例年通りの内容、筋書き通りの流れ、大きな議論の争点もなく突っ込みどころがなくありきたりな話、参加者の当事者意識が少ないなどなど、そういった理由で盛り上がりもなく形式的に終わる場合に、『シャンシャン総会』と皮肉を込めた表現で使われるのです。

議論が紛糾して、怒号が飛び交い、相手を糾弾するような形の大荒れの総会だってあります。『シャンシャン総会』がいいか悪いか、あるいは『シャンシャン』と『大荒れ』のどちらがいいかは、一概に判断はできません。問題は議論の中身や会の雰囲気そのものだと思います。その議論や総会を経て、ものごとがいい方向にいくことが大切です。

いずれにせよ、私が言いたいのは、もちろん今日の生徒総会に限らず、全校生徒には、生徒会の一員として、自分は部外者や傍観者ではなく、学校をよりよくする、盛り上げるべき重要な当事者の一人なんだという強い意思をもって生徒会活動に取り組んでほしいということです。

昨年度も言いましたが、生徒会の役員や本部や専門委員長が生徒会の主役ではありません。皆さん一人一人が主役です。学校や先生や学校のリーダーや周りの人が何をしてくれるかを、待ったり期待したり任せたりするのではなく、自分自身が何ができるか、何をするかということこそが重要なのです。

山潟中学校の生徒会の一本締めの最後の「シャン」に誰もがなれる、そんな皆さんの活躍を、これからも大いに期待しています。